

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

| | | | |
|------|---------------------------|------|------|
| 整理番号 | 48 | 大学等名 | 新潟大学 |
| テーマ | テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー） | | |

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、本事業の実施を通じて、全学的なクォーター制の導入をはじめ、問題解決型学習（PBL）の普及や初年次科目の充実など、確実に大学教育の加速（教育の質保証・質向上）に結びついている。また、学事暦の柔軟化と対応して高大接続改革と連動させた初年次教育の改革、既に構築・運用されている独自の「新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）」と対応したアセスメント・ポリシーの開発、学位プログラムの考え方に立脚したカリキュラム・マネジメントの実質化など、大学教育の質保証を実現するための総合的な取組が行われている点で高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、組織・運営体制が構築（新設・整備）され、学外機関との連携強化のための「学外協働機関データベース」の構築・運用が開始されたことから、本事業の効率的・効果的な推進が図られていると評価できる。また、プログラム実施における事前指導・事後指導の義務付けや、初年次教育での学外学修や能動的学修を必修科目としてカリキュラムに位置付ける部局の着実な増加、さらに活動資金のマッチングファンドに係る様々な対策の検討・実施など、多様な取組が行われていることから、高水準で事業が実施されたと高く評価できる。ただし、必須指標である「退学率」は目標値に未達となっていることから、当該原因の分析・検討を行い、引き続き努力することが望まれる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、実施体制・評価体制ともに適切に整備・運営されていることに加え、全学と部局の連携、大学と企業等との連携を取りながら、PDCA サイクルを機能させていると読み取れる。なお、当該大学の事業成果に鑑みると、具体的にどのような客観的なエビデンスに基づいて評価を実施し、プログラムの改善に役立てられ、成果に結び付いているのかを明らかにすることは、他大学等の取組改善に資するものとなると考えられることから、この点での成果の積極的な公表・共有が期待される。さらに、事業の評価やプログラムの改善においては、学生の声を積極的に聴取し、この PDCA サイクルの中に位置付けていくことも検討されたい。

事業成果の普及について、本事業を実施し、その質的向上を図りながら、大学全体の教育改革と連動して進めてきたと考えられる。また、授業やカリキュラムだけではなく、連携のための仕組み作りや広報、他大学との連携推進等、広い視野から大学の魅力を向上させる取組を展開してきたことが高く評価できる。この火を絶やさずに、今般の新型コロナウイルス感染拡大など外的な要因による困難な状況下にあっても、実施可能な長期学外学修プログラムの可能性について探究し、各大学のモデルとなっていただきたい。